

平成19年度 事業計画書

自 平成19年4月 1日

至 平成20年3月31日

I. 助成部（一般会計）に関する事項

1. 収入について

基本財産運用収入7,458千円、賛助会会費収入4,800千円、寄付金収入1,300千円、運用財産運用による利息等収入22,190千円、敷金戻り収入7,639千円、有価証券売却収入10,000千円が助成部の収入として見込まれます。

2. 事業計画について

- | | |
|---|---------|
| (1) 図書印刷費 | 600千円 |
| 大阪大学蛋白質研究所紀要出版費として計上しました。 | |
| (2) 大阪大学蛋白質研究所における講演会及び討論会の助成 | 1,200千円 |
| 上記の助成のため交際費600千円、会議費600千円を計上しました。 | |
| (3) 蛋白質に関する研究の助成 | 3,000千円 |
| 大阪大学蛋白質研究所における一般研究助成費として3,000千円を計上しました。 | |
| (4) 学会等開催に対する助成 | 500千円 |
| ペプチド関連学会等に対する助成費として計上しました。 | |
| (5) 赤堀・鈴木奨学金の支給 | 2,880千円 |
| 蛋白質に関する研究者養成のために大阪大学蛋白質研究所所属の研究生及び大学院後期課程修了程度以上の研究者に対し、1人月額80千円、年額960千円、3名分を計上しました。 | |

- (6) 金子・成田研究奨励金の交付 3,000 千円
アミノ酸、ペプチド、蛋白質に関する優れた研究に対し、1件当り 600 千円、5 件分の研究奨励金を計上しました。
- (7) 海外研究者招聘費 1,500 千円
海外よりの研究者 1 名の旅費、滞在費及び諸雑費を計上しました。
- (8) 分子生物学研究の助成 6,000 千円
A-IMBN・AMBO 分子生物学研修会経費を計上しました。

第 30 回 A-IMBN・AMBO 分子生物学研修会

課 題： 未定

主宰者： 未定

場 所： 延世大学（韓国・ソウル）

日 時： 未定

3. 建物改修経費 10,000 千円

研究室・事務室の様様替え及びエレベーターの設置並びに経年老朽による電気・通信設備の取り替え、屋上防水工事等の環境整備に要する経費として計上しました。

また、一部平成 18 年度中に竣工した工事については、当該年度にて支払います。

II. 事業部（研究・情報）（収益事業会計）に関する事項

1. 収入について

受託研究収入 38,400 千円、図書印刷物売上収入 10,000 千円、雑収入 12,420 千円、総額 60,820 千円が事業部の収入として見込まれます。

2. 事業計画について

(1) 研究関係

- 1) His(Bom)基由来の副反応の検定とヒスチジン側鎖の新規保護基の開発を行ないます。
- 2) HF 反応に添加するスカベンジャーの検討を行ないます。
- 3) 神経変性疼痛に鎮痛的に作用するペプチド #56 の構造活性相関の解明を行ないます。
- 4) β -O-GlcNAc 含有糖ペプチドの合成法の検討を行ないます。

(2) 情報関係

“Peptide Information” 誌に関してはPubMedやDDBJなどの他の有用なデータベースへのリンク情報を記載することで、より一層充実した情報提供を行います。また、索引号を発行する際に、当該年の“Peptide Information” 誌の内容をPDF形式で格納したCD-ROMもあわせて発行することで、さらに高度な利用が可能となるようにいたします。

パーソナルコンピュータ版 “Peptide Information/PI-DISK” に関しては、ウィンドウズやマッキントッシュなどをつかって利用者がより高度に文献データを活用できるように、それぞれに対応するフォーマットを拡充します。また、データの提供媒体としてCD-ROMをあらたに採用し、複数のフォーマットに対応するデータを一括して提供いたします。

タンパク質・ペプチドに関するデータベース、PRF/LITDB (文献データベース) および PRF/SEQDB (アミノ酸配列データベース) に関しては、インターネット上で利用できるようにWorld Wide Webサーバーの機能を拡充すると共に、各種検索サービスをより一層充実します。インターネット上でのデータベースの検索システムの改良もひきつづき行います。

一方、合成ペプチドおよびその関連化合物データベース (PRF/SYNDB) については、画像情報として格納してある構造情報をインターネット上で公開するために、システムの増強を引き続き行うとともに、検索および表示システムの改良を続けます。また、配列データ自体に異常アミノ酸や修飾の情報を組み込んだデータベース (PRF/MODDB) の一層の拡充も進んでおります。

国際協力の立場からは、各国の研究機関によるインターネットを通じた当財団のデータベース利用環境の整備を進め、研究者がより一層利用しやすいデータの提供方法も検討していきます。

平成15年度をもって終了しました文部科学省知的基盤研究「生体内ペプチドのデータベース作成の研究」については、その成果であるペプチドームデータベースの維持ならびに公開に引き続き協力しています。また、インターネットを利用した本データベースの構築方法についての研究、及び公開方法ならびにネットワーク機構の研究も続行します。

平成18年度をもって終了しました文部科学省科学技術振興費ITプログラム「スーパーコンピュータネットワークの構築（バイオグリッド）」については、「データグリッド」システムで利用する基礎データベースとして「疾病に関連する蛋白質とその変異位置に関するデータベース（PRF/DRPDB）」の提供を引き続き行います。

平成18年度より、大阪大学生物工学国際交流センターとの共同研究として「酵母分類データベース」の構築を開始しました。このデータベースのデータ導入支援システムおよび検索利用システムの開発を引き続き行います。

既存のデータベース利用機構のXML対応とウェブサービス化の機構を研究することにより、ペプチドームデータベースおよび当財団で構築している各種データベースが、研究者にとって、より一層利用しやすいものとなるようにしてまいります。